

2022 年卒
Vol. 08

6 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2022 学生モニター調査結果 (2021 年 6 月発行)

2022 年卒業予定者の採用面接が今月 1 日に正式に解禁され、大きな山場を迎えている。コロナ禍で停滞した昨年に比べ進行の早さが目立っていたが、内定状況などはどのように変化しただろうか。6 月 1 日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況を調査した。過去の 6 月調査結果との比較も交えながら、全体的な活動状況を確認したい。

1. 6 月 1 日現在の内定状況

- 内定率は 71.8%。前年同期実績 (64.0%) を 7.8 ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の 47.5%。前年 (35.2%) を 12.3 ポイント上回る。継続者は 52.5%

2. 内定を得た企業の属性

- 「情報処理・ソフトウェア」が 3 割強で最多。文理男女問わず上位に
- 内定企業の過半数 (53.1%) がインターンシップ参加企業。5 年前に比べ約 20 ポイント増

3. 選考試験の受験状況

- ES 提出社数は平均 15.7 社。筆記受験 10.9 社、面接 8.6 社。いずれも前年同期を上回る
- 面接形式は「対面」2 割、「WEB」8 割でオンラインが主流。但し、最終面接は対面が 4 割

4. 就職活動継続学生の動向

- 選考中の企業数は平均 2.8 社。これから受験する企業は 1.9 社。ともに前年同期より減少
- 未内定者の 4 割が「新たな企業を探しながら、幅広く企業を広げていく」
- 新たな企業を探す手段は「就職情報サイト」85.8%、「オンライン合説」27.7%の順

5. 内定保持学生の未決定理由

- 「本命の企業が他にあり、まだ選考中」が前年より減少 (55.1%→46.2%)

6. 未内定者の見通し

- 未内定者の 4 人に 3 人 (73.5%) は「内定の見通しが立っていない」

7. オンライン就活によるミスマッチ

- オンライン中心は「ミスマッチに繋がる」約半数 (48.2%)。理解不足を自覚する声も

8. 就職活動で感じるコロナ禍の影響

- 「コロナ禍の影響感じない」は 1 割。大半が自身の就活に影響あったと回答
- 「良い影響と悪い影響が半々」が 4 割強。オンライン化の広がりなど前向きに捉える姿も

調査概要

- 調査対象 : 2022 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)
回答者数 : 1,217 人 (文系男子 386 人、文系女子 361 人、理系男子 333 人、理系女子 137 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2021 年 6 月 1 日~6 日
サンプリング : キャリタス就活 2022 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. 6月1日現在の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は71.8%。先月調査(5月1日、58.4%)からの1カ月間で13.4ポイント上昇し、前年実績(64.0%)を7.8ポイント上回った。今期は序盤から早いペースで進行。前年のみならず、新型コロナウイルスの影響がなかった2年前に比べてもかなり高い水準で推移してきたが、選考解禁のこのタイミングで2年前(2020年卒者、71.1%)とほぼ同水準になった。

現時点の内定率は男子学生よりも女子学生の方が高く、文理とも女子は7割台の後半に達している。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは60.0%。前年同期(50.4%)を9.6ポイント上回る。前年はコロナ禍による混乱で採用活動の中断・停滞が目立ったが、今年は早期に活動する企業が多くなり、学生の就職先決定のタイミングも前年より早くなっている。内定者のうち、活動を継続しているのは33.9%。

<6月1日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

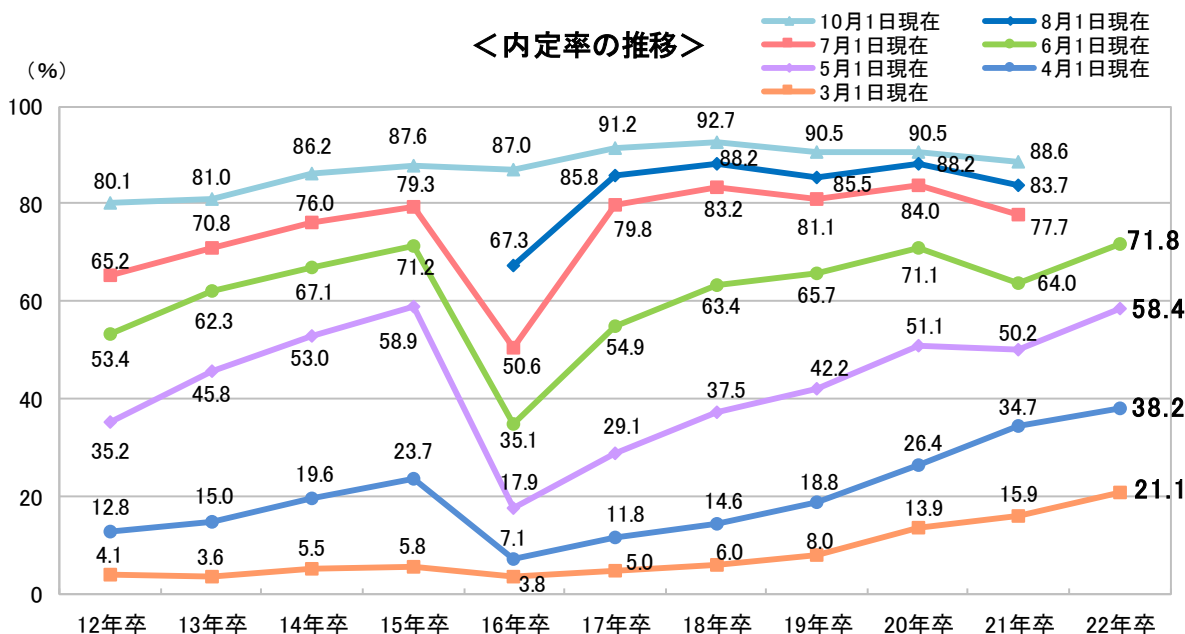
| | | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|--------|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 内定あり | | 71.8 (64.0) | 64.8 (56.2) | 76.5 (63.9) | 72.7 (69.7) | 77.4 (71.4) |
| 内定なし | | 28.2 (36.0) | 35.2 (43.8) | 23.5 (36.1) | 27.3 (30.3) | 22.6 (28.6) |
| 内定者のうち | 就職先を決定し活動終了 | 60.0 (50.4) | 48.8 (40.4) | 48.2 (41.0) | 79.8 (61.3) | 71.7 (68.0) |
| | 活動は終了したが複数内定保持 | 5.6 (4.0) | 5.6 (3.8) | 9.4 (6.2) | 2.5 (3.5) | 2.8 (1.0) |
| | 進学などの理由で就職活動を中止 | 0.6 (0.6) | 0.0 (0.9) | 0.0 (0.4) | 1.7 (0.9) | 0.9 (0.0) |
| | 就職活動継続 | 33.9 (44.9) | 45.6 (54.9) | 42.4 (52.4) | 16.1 (34.3) | 24.5 (31.0) |

(%)

| | | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|---------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 内定社数/平均 | | 2.1 (1.9) | 2.2 (1.8) | 2.2 (1.8) | 2.1 (2.2) | 1.9 (1.7) |

(社)

※ () 内は前年(6月1日現在)の数値

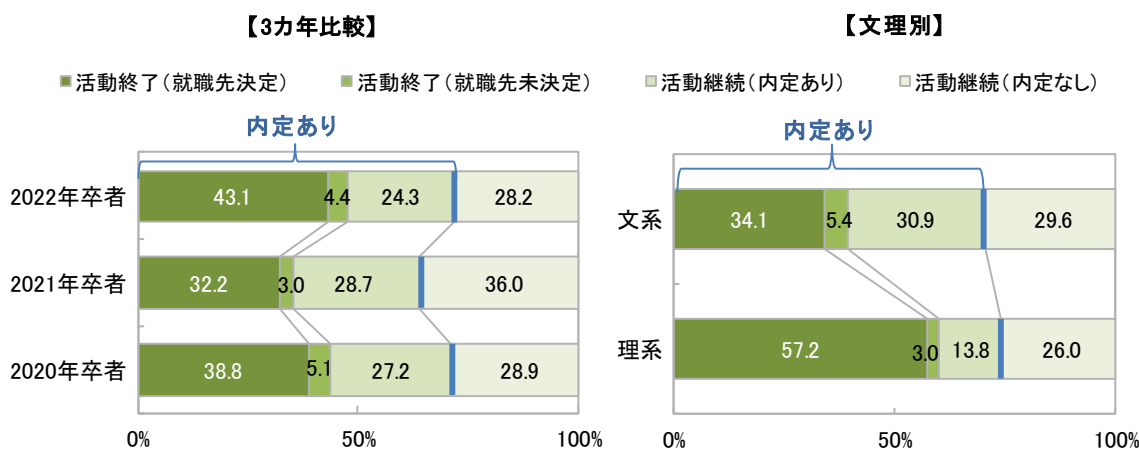


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~22卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

モニター学生全員を分母にして活動状況を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は 43.1%。複数内定を保留しているなど未決定である者 (4.4%) を合わせると、終了者は 47.5% となる。内定率の上昇だけでなく、内定者における就職先決定者の割合も増加したことで、前年同期 (計 35.2%) より大きく上昇した (12.3 ポイント増)。活動継続者は「内定あり」(24.3%)、「内定なし」(28.2%) を合わせて 52.5%。文系において継続者の割合が高く、内定保持者も含め文系の 6 割 (計 60.5%) が継続中と回答した。

就職戦線はこの後、事実上の後半戦へと移っていく。ここまでは順調に進行しているように見えるが、これから先どう推移していくかが注目される。

<活動状況の分布>

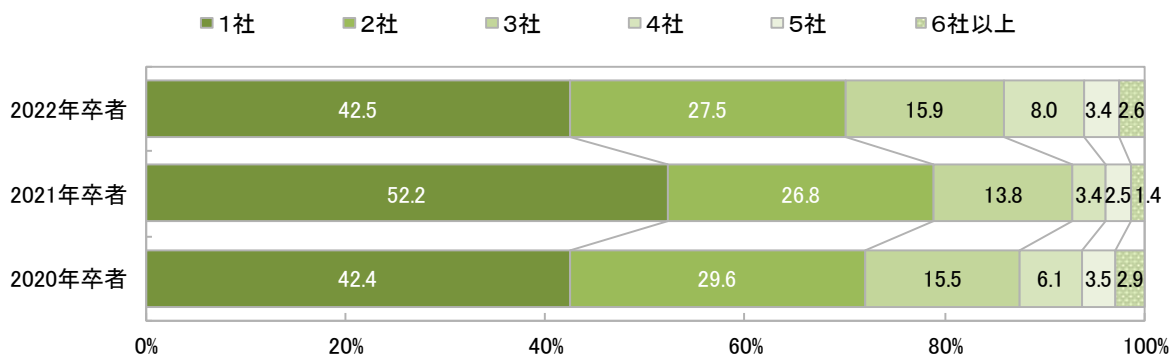


選考解禁のタイミングで内定を得ている学生一人あたりの取得社数を詳しく見てみると、「1社」という学生は42.5%。残りの6割近くが、複数の企業から内定を得ている。「2社」が27.5%、「3社」が15.9%と続く。平均すると2.1社。

インターンシップ等へのプログラム参加から早期選考、早期内定に繋がる傾向が強まっているが(後述)、その後も活動を継続する学生は多く、複数内定が増える要因の1つになっているのだろう。

複数内定が増えれば、企業側の内定辞退のリスクは高まる。内定後のフォローの重要性が増している。(志望度が高まったフォロー、逆に下がったフォローについて、9ページに学生の声を紹介)

<6月時点の内定社数の内訳>



2. 内定を得た企業の属性

内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。「情報処理・ソフトウェア」が今年も1位。全体の3割を超え、文理や男女といった属性に関わらず多くの内定が出ている。2位は「建設・住宅・不動産」(17.0%)、3位は「調査・コンサルタント」(10.1%)。

文理男女別で細かく見ると、文系は男女とも1位は「情報処理・ソフトウェア」だが、2位以下に違いが見られる。文系男子は「銀行」が2位で、「建設・住宅・不動産」「商社(専門)」と続く。文系女子は「専門店」「その他サービス」が上位に挙がり、他の属性と志望の違いが目立つ。理系は「情報処理・ソフトウェア」「建設・住宅・不動産」の2業界に内定が集中している。理系男子は、「電子・電機」が、理系女子は「水産・食品」がそれぞれ3位。

<内定を得た業界(上位10業界)>

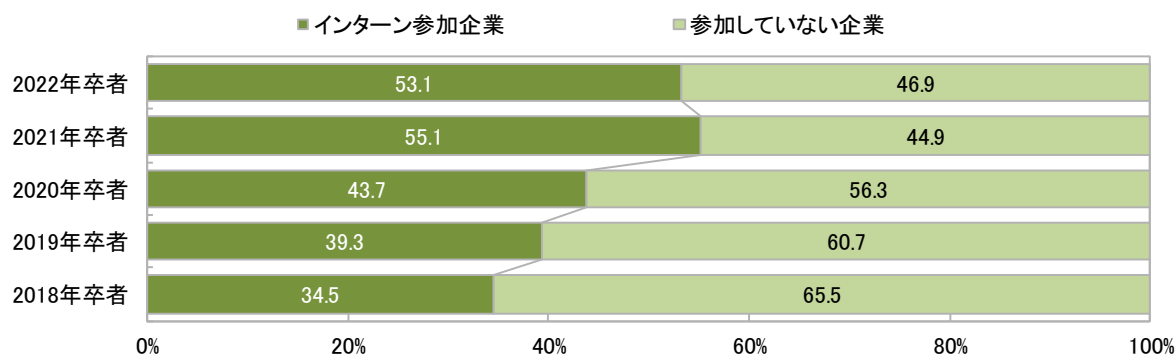
※6つまで選択 (%)

| | 全 体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|----|---------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 1 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 33.3 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 30.4 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 33.3 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 39.7 | 建設・住宅・不動産 31.1 |
| 2 | 建設・住宅・不動産 ② 17.0 | 銀行 14.8 | 専門店 14.5 | 建設・住宅・不動産 23.1 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 25.5 |
| 3 | 調査・コンサルタント ④ 10.1 | 建設・住宅・不動産 14.4 | その他サービス 14.1 | 電子・電機 19.4 | 水産・食品 11.3 |
| 4 | 銀行 ⑤ 9.7 | 商社(専門) 13.6 | 銀行 13.4 | 機械・プラントエンジニアリング 13.2 | 医薬品・医療関連・化粧品 11.3 |
| 5 | 運輸・倉庫 ⑩ 9.5 | 運輸・倉庫 12.4 | 保険 12.3 | 素材・化学 12.4 | 調査・コンサルタント 9.4 |
| 6 | 電子・電機 ③ 8.9 | コンビニエンス・GMSストア 12.4 | 調査・コンサルタント 11.6 | 人材サービス・人材紹介・人材派遣 9.1 | 機械・プラントエンジニアリング 9.4 |
| 7 | その他サービス ⑧ 8.7 | 調査・コンサルタント 12.0 | 商社(専門) 11.2 | 自動車・輸送用機器 9.1 | エネルギー 9.4 |
| | 専門店 ⑫ 8.7 | その他サービス 10.8 | 運輸・倉庫 9.8 | 運輸・倉庫 7.4 | 電子・電機 7.5 |
| 9 | 商社(専門) ⑫ 8.6 | 専門店 10.4 | コンビニエンス・GMSストア 9.1 | 調査・コンサルタント 6.6 | 人材サービス・人材紹介・人材派遣 7.5 |
| 10 | コンビニエンス・GMSストア ⑱ 7.7 | 保険 8.4 | 人材サービス・人材紹介・人材派遣 9.1 | エネルギー 6.6 | 運輸・倉庫 6.6 |
| | | | | | 自動車・輸送用機器 6.6 |
| | | | | | 素材・化学 6.6 |

※○の中の数字は前年同期調査の順位
※「その他サービス」=セキュリティサービス、介護・福祉サービス、冠婚葬祭などのサービス業

内定企業におけるインターンシップ参加企業の割合は、この5年で大きく増加した。2018年卒者では3割強だったが、ここ2年は半数を超えている。インターンシップから内定に繋がるケースが増えている。

<内定を得た企業のインターン参加>



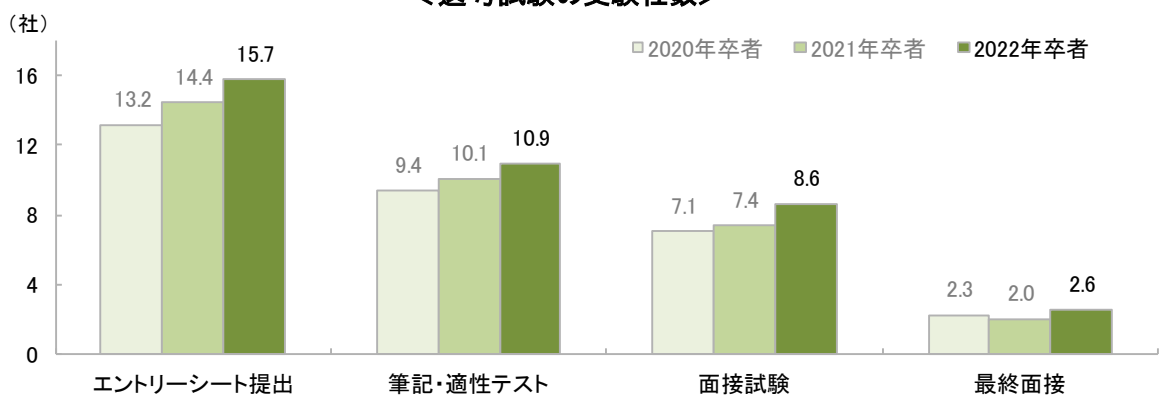
3. 選考試験の受験状況

6月1日時点での選考試験の受験状況を確認してみよう。

エントリーシート (ES) の提出社数の平均は 15.7 社。前年同期 (14.4 社) を 1.3 社上回る。筆記試験 (10.9 社)、面接試験 (8.6 社) の社数もそれぞれ前年同期を上回っている。早期化に加え、オンライン化の定着で、より多くの企業を受けることが可能になったことも影響していると思われる。

これまでに受けた面接試験について、対面と WEB の割合を尋ねると、対面での面接が 2 割であるのに対し (20.6%)、WEB 面接が約 8 割 (79.4%) と圧倒的に WEB の割合が多い。ただし、最終面接においては対面が約 4 割 (41.8%)、WEB が約 6 割 (58.2%) と対面の割合が増える。採用の可否を決める最終局面においては、対面での実施にこだわる企業が一定数あることがわかる。

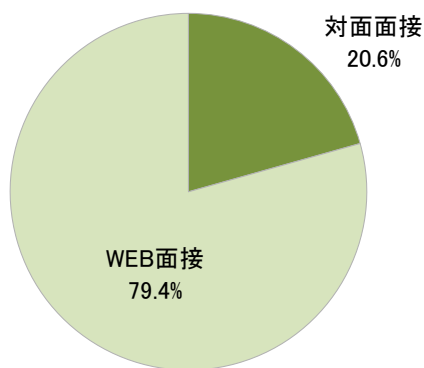
＜選考試験の受験社数＞



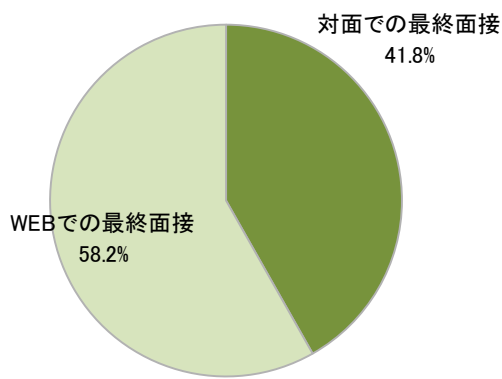
※オンライン形式も含む ※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出

| | 全体 | (前年全体) | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|----------|------|--------|------|------|------|------|
| エントリーシート | 15.7 | 14.4 | 18.6 | 17.7 | 10.9 | 13.5 |
| 筆記・適性テスト | 10.9 | 10.1 | 13.0 | 12.1 | 7.8 | 9.3 |
| 面接試験 | 8.6 | 7.4 | 9.9 | 9.9 | 6.3 | 6.8 |
| 最終面接 | 2.6 | 2.0 | 2.6 | 2.8 | 2.5 | 2.4 |

＜対面面接とWEB面接の割合＞



＜最終面接の受験形式＞



4. 就職活動継続学生の動向

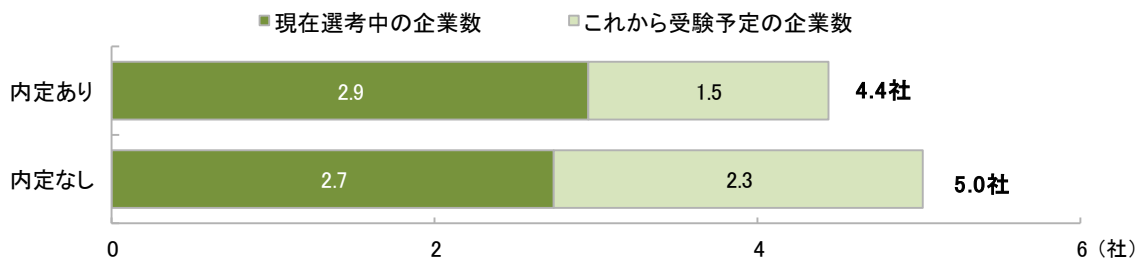
内定保持者を含め就職活動を継続している学生（モニター全体の 52.5%）の動向を確認したい。

現在選考中の企業数は平均 2.8 社、これから受験予定の企業数は 1.9 社。ともに前年同期を下回る。企業の選考がハイペースで進んだことで、結論が出るタイミングが早く、手持ちの企業が少なくなっているのだろう。これを内定の有無別で見ると、内定あり学生は選考中企業が 2.9 社に対し、内定なし学生は 2.7 社とやや少ない。特に未内定者において、受験企業の拡大が課題となっている。

今後の活動方針についても、内定の有無で差が見られる。内定を持ちながら活動している学生は「選考が進んでいる企業に絞って活動する」が半数を占めるが（50.3%）、未内定学生は「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく」が約 4 割に上る（39.9%）。実際、未内定学生の過半数（計 53.8%）が新たな企業にこれからエントリーをする予定だと回答した。

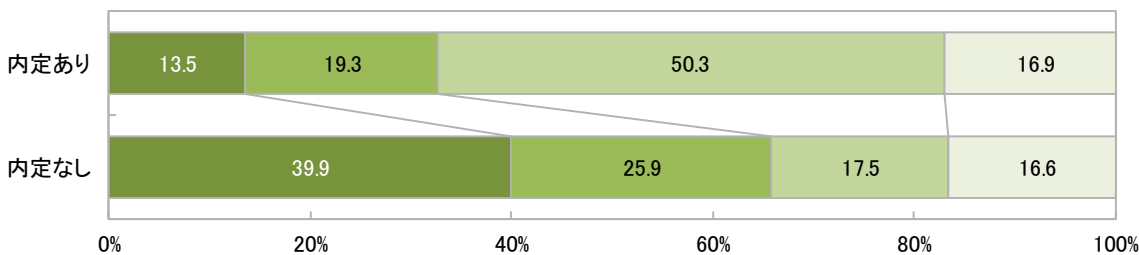
<持ち駒企業数>

| | 全体 | (2021年卒者) | (2020年卒者) | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|--------------|-----|-----------|-----------|------|------|------|------|
| 現在選考中の企業数 | 2.8 | 3.9 | 3.0 | 3.2 | 3.2 | 1.7 | 2.3 |
| これから受験予定の企業数 | 1.9 | 2.4 | 2.1 | 2.2 | 2.2 | 1.2 | 1.5 |

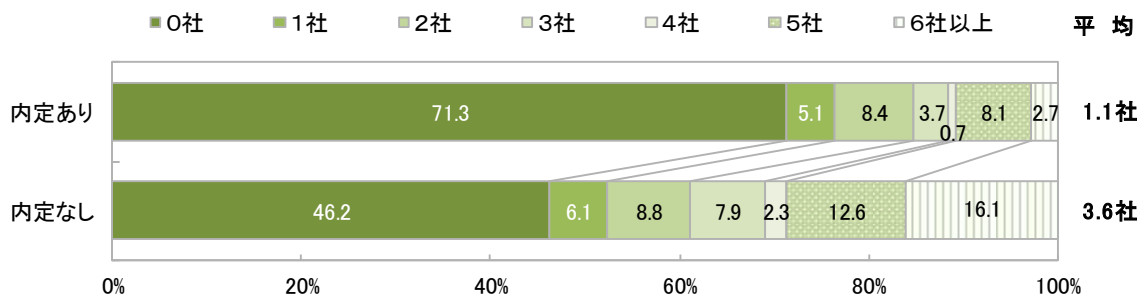


<今後の就職活動の方針・戦略>

- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく
- これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する

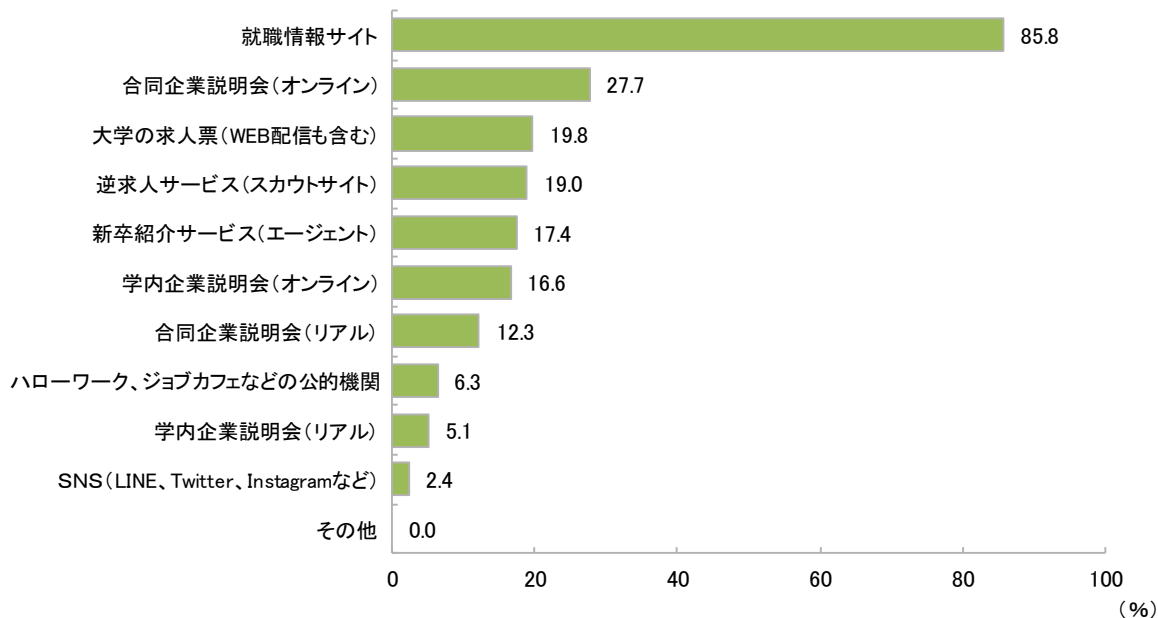


<今後のエントリー予定社数>



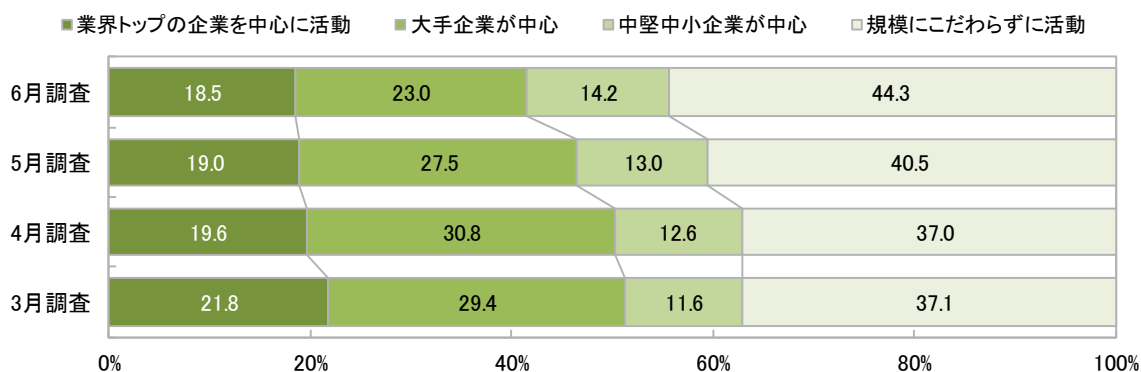
新たな企業を探す手段（ツール）は「就職情報サイト」が8割強と圧倒的に高く（85.8%）、ここに「合同企業説明会（オンライン）」（27.7%）が続き、WEBを活用して企業を探す動きが顕著だ。また、「逆求人サービス（スカウトサイト）」（19.0%）や「新卒紹介サービス（エージェント）」（17.4%）などの就職支援サービスを活用する学生も少なくない。

＜新たな企業を探す手段＞



就職活動の中心としている企業規模について、3月調査からの推移を確認してみたい。3月調査時点では、半数以上の学生が業界トップや大手企業を目指していたが（計 51.2%）、6月調査では4割程度まで縮小（計 41.5%）。「規模にこだわらずに活動している」学生が増加している（3月調査：37.1%→6月調査：44.3%）。就職戦線も山場を迎え、就活生の志望先に変化が出てきた様子が読み取れる。

＜就職活動の中心としている企業規模＞



■就職活動継続学生の声

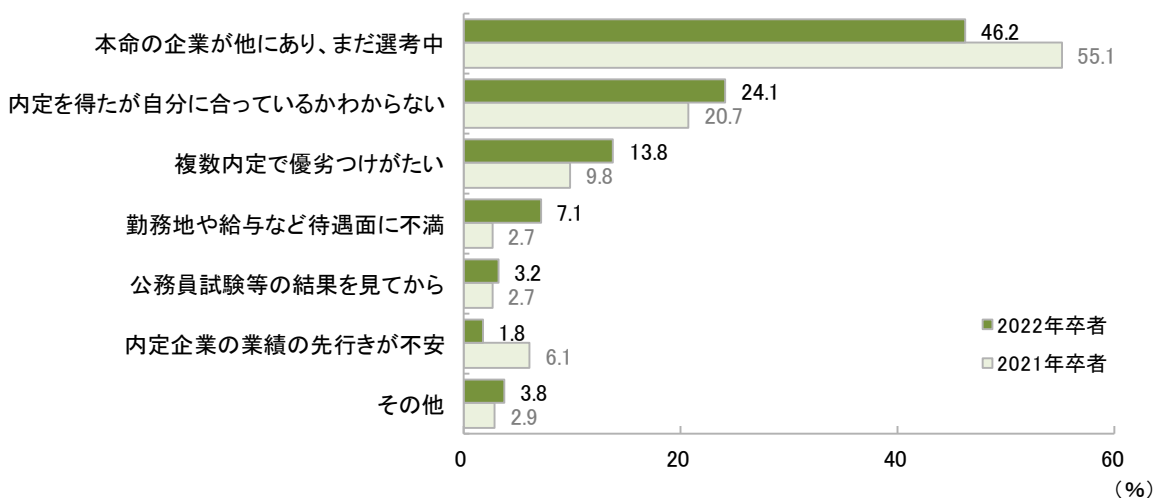
- 選考中の企業はあるが、志望業界から見直そうともしている。 <文系男子>
- 5月の下旬に持ち駒がすべてなくなり、この時期に企業探しや、一からエントリーをしている。 <文系女子>
- 優良中小企業を探すのが難しい。 <文系女子>

5. 内定保持学生の未決定理由

内定取得学生のうち就職先を決めていない者（モニター全体の 28.7%）に、その理由を 1 つだけ選んでもらった。最も多いのが「本命の企業が他にあり、まだ選考中」という回答で、本命企業の結果次第という状況だ。ただ、コロナ禍で選考の遅れが目立った前年に比べ、割合は大きく下がった（55.1%→46.2%）。

2 番手の「自分に合っているかわからない」は前年より多い 4 人に 1 人が選択（24.1%）。続く「複数内定で優劣つけがたい」（13.8%）もポイントを伸ばすなど、内定承諾を迷う学生が増えた。企業と対面での接触が持ちにくい中で、判断できる材料が乏しくなっている面もありそうだ。

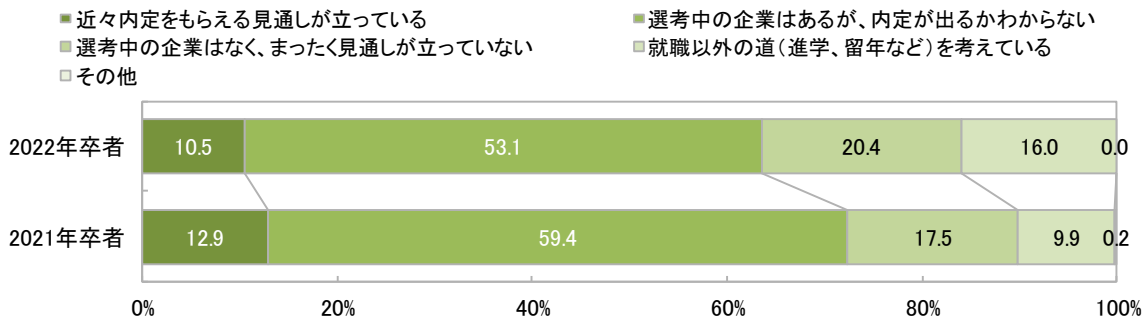
＜内定保持者が就職先を決めていない理由＞



6. 未内定者の見通し

未内定の学生には内定獲得の見通しを尋ねた。「近々内定をもらえる見通しが立っている」は 1 割（10.5%）にとどまり、最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定が出るかわからない」（53.1%）。ここに「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」（20.4%）を足し合わせると 73.5% になり、未内定者の 7 割強が先の見えない状況にあるようだ。高水準の内定率の一方で、厳しさが表れている。

＜未内定者が内定を得る見通し＞



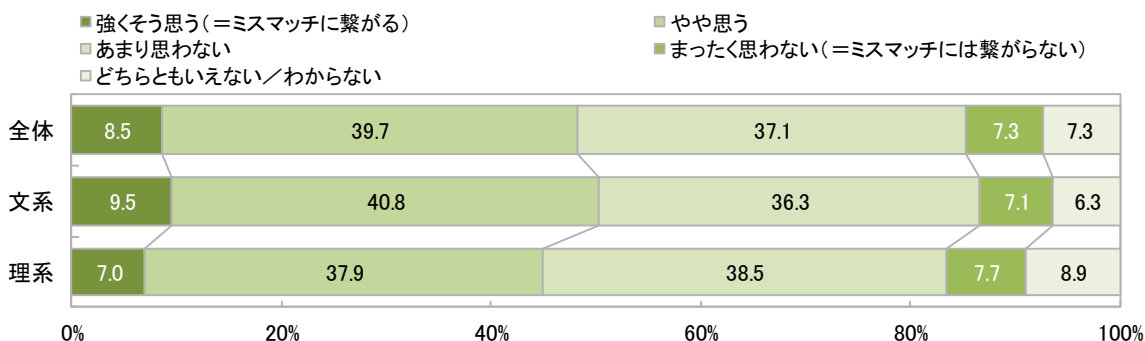
■未内定の学生の声

- 研究室が忙しく、なかなかエントリー数を確保できず、出遅れてしまった。 ＜理系男子＞
- 自分に合う業界を見つけるのが難しい。 ＜理系女子＞
- 面接でどのようなことを話せば良いのかわからなくなってきました。就職留年も多少検討しています。 ＜文系男子＞

7. オンライン就活によるミスマッチ

コロナ下でオンライン中心の就職活動を進めてきた学生が大半だが、オンライン中心の就活がミスマッチに繋がると思うかどうかを尋ねた。「強くそう思う (ミスマッチに繋がる)」は 1 割未満だが (8.5%)、「ややそう思う」(39.7%) を合わせると半数近くに上る (計 48.2%)。一度も会社を訪問したことのないまま内定を得るケースも多く、企業や仕事について十分に理解できているのか懸念する学生が多いようだ。企業には、こうした不安を解消するようなフォローが求められる。

＜オンライン中心の就活はミスマッチに繋がると思うか＞



■志望度が上がった、嬉しかった内定者フォロー

- 電話での内定連絡の際、採用理由のフィードバックをもらえたこと。また、内定者面談や見学ツアーなど内定後のサポートがしっかり計画的に行われており、内定先に対して安心感をもつことができた。 <文系女子>
- 面接を担当した人全員の直筆のコメントが入ったメッセージカードをもらった。 <文系男子>
- 内定者同士の交流会を実施してくれたこと。オンラインが中心だったので、あまり内々定をいただいた実感がわかなかったが、交流会のおかげで具体的なイメージができるようになり、安心しました。 <理系男子>
- 人事の方から何回かお電話をいただき、給料関係などの少し聞きにくいようなことも細かく教えていただくことができて、入社後のイメージをしやすくなりました。 <理系女子>
- 本当にたくさんの社員の方との交流機会をくださった。誰彼構わずということではなく、私の興味関心を聞いた上で、話が合いそうな方を案内してもらえた。 <文系女子>
- オンラインでの本社ツアーが気楽に参加できてよかった。 <文系男子>
- LINE で定期的に連絡をくれることが嬉しい。コロナ禍ではあるが、対面で職場体験をしたいと連絡したら、前向きに検討すると答えが返ってきたこと。 <文系女子>
- 会社の動向について心配になりメッセージで質問した際も、電話で速やかかつ丁寧に対応してもらえ、安心してここに入ろうと決められた。 <文系女子>

■志望度が下がった内定者フォロー

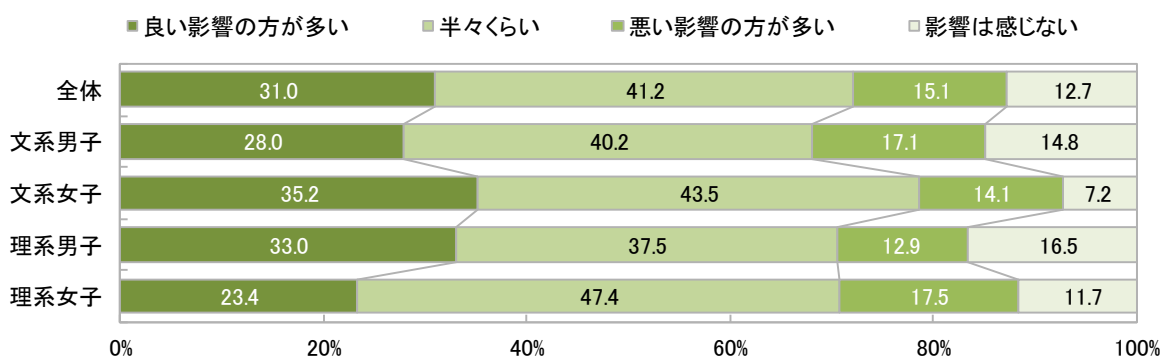
- 内定を保留していたら毎日電話がきたこと。 <文系男子>
- 就活を終われと言われたところは志望度が下がり、行く気をなくしました。 <文系男子>
- 内定后面談で企業の良いところばかりを伝えられて、志望度が下がった。 <理系女子>
- なぜ内定がもらえたかという質問に対して、フィードバックがなかった。 <文系女子>
- 内定後のオファー面談で、以前聞いていたことと違う内容を聞かされた。 <理系男子>
- 自由応募なのに推薦状の提出を求められたこと。 <理系男子>
- いまだに勤務先に伺っていないことが気になっています。 <理系男子>
- 何もフォローがないと、その会社のことを忘れてしまうので志望度が下がります。 <文系女子>

8. 就職活動で感じるコロナ禍の影響

ここまでの就職活動を振り返って、コロナ禍の影響をどのように感じているか尋ねた。「影響は感じない」は1割台(12.7%)にとどまり、自身の就職活動に何らかの影響があったと感じる学生が大半だ。

良い影響と悪い影響が「半々くらい」と感じる学生が最も多い(41.2%)。オンライン化に伴い、効率化などのメリットがある一方、ミスマッチの懸念などのデメリットも同程度感じているようだ。「良い影響の方が多い」という回答が3割を超え(31.0%)、「悪い影響の方が多い」(15.1%)の2倍近くに上る。コロナ下で様々な制約を受けながらの就職活動も、前向きに捉える学生は少なくない。

＜ここまでの就職活動で感じるコロナ禍の影響＞



■良い影響の方が多いと感じる理由

- オンライン中心になり、移動時間を考慮しなくてもいいおかげで、勉強と両立しながら多くの企業のインターンやセミナーに参加することができた。 <文系女子>
- 自宅から就活イベントに参加しやすく、自身の視野を広げることができ、結果的に当初想定していなかった業界への就職を決定することができたため。 <理系男子>
- 対面面接では自分の力を出し切ることができないので、自室で面接を受けられてよかった。 <文系男子>
- 部活生のため、練習や試合の合間にOB訪問や動画視聴ができたのが、とても便利だった。 <文系女子>

■良い影響と悪い影響が半々くらいと感じる理由

- 行きたかった企業のインターンシップが中止になってしまったこともあるが、コロナによって就職活動に対する危機感を持つことができ早めからスタートすることができた。 <理系男子>
- 高校生からの夢だった業界はコロナの影響で採用が中止になったから。しかし、今の内定先企業とはいい出会いだったと思う。コロナ禍でなければ出会ってなかったと思うし、後悔はしていない。 <文系女子>
- 面接を1日に何回もできる点はよかった。一方で、会社の雰囲気やいまいち掴めない点はデメリットだ。 <文系男子>
- オンライン面接が多くなったことは、自分を表現しづらいように感じる一方、気軽により多くの企業を受けやすくなったように感じ、良いとも悪いとも言えない。 <文系男子>
- オンライン説明会や面接がメインになり、学業や課外活動との両立がしやすくなった一方、周りの就活状況が見えにくく、情報を得ることが難しいように感じた。 <理系女子>

■悪い影響の方が多いと感じる理由

- 本命企業が採用中止になった。 <文系男子>
- 対面での説明会や工場、職場見学がほとんどなくなったことは悪影響だと感じる。 <理系男子>
- 対面で人と話すのが好きなのでオンラインは面倒。家だと集中力、モチベーションが上がらない。 <文系男子>
- 直接会えないことで入社してからのギャップが大きくなりそう。 <文系女子>